

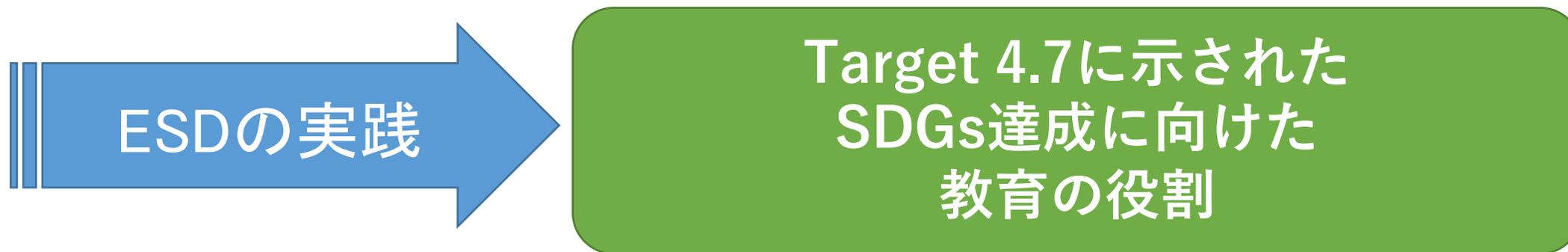
ESD /SDGsのカリキュラム開発



全国小中学校環境教育研究会

棚橋 乾

1 SDGsにおけるESDの位置づけ



学校教育で、ESDを充実・普及させるためのポイント

- 1、教育委員会の積極的な関与と学校管理職のリーダーシップ
- 2、子どもの変容を図るカリキュラムづくり
- 3、地域や社会との連携

1、教委の積極的な関与と学校管理職のリーダーシップ

学習指導要領の変化

- “持続可能な社会の創り手“の記載
- 学習指導要領解説にSDGs や持続可能性に関する記載
中学校社会科では54ヶ所に記述が見られる
- 持続可能性に関する学習指導要領の一部改訂（教育委員会通知）

学校管理職のリーダーシップ

ESDを推進するにあたり、ホールスクール・アプローチ、カリキュラム・マネジメントなどの取り組みは、校長の学校経営方針に示されなければ有機的に機能しない。

「中学校学習指導要領解説」及び「高等学校学習指導要領解説」の一部改訂について（教育委員会通知）

1. 改訂の趣旨 地球環境問題は、我が国のみならず世界全体の課題であるとともに、国民一人一人のライフスタイルに大きな影響を与えるものであり、本年6月2日に改正された地球温暖化対策の推進に関する法律において、地球温暖化対策の推進は、我が国における2050年までの脱炭素社会の実現を旨として、国民並びに国、地方公共団体、事業者及び民間団体等の密接な連携の下に行われなければならない旨が規定された。

学習指導要領及びその解説において、既に複数の教科・科目等で地球環境問題に関する記述があるが、以上のような状況を踏まえ、学習指導要領解説において、脱炭素社会の実現等に関する記述を追記し、学校における地球環境問題に関する指導の充実に資するようにする。

2. 改訂の概要

(1) 中学校 ①理科

- ・ 「第1分野」のエネルギーとエネルギー資源に関する解説において、「脱炭素社会の実現について取り上げることも考えられる」旨を明記したこと。
- ・ 「第2分野」の自然環境の調査と環境保全に関する解説において、「気候変動について触れる際には、脱炭素社会の実現などの地球環境問題について取り上げることも考えられる」旨を明記したこと。

2) 高等学校

①**地理歴史** ・ 「地理総合」の地球的課題と国際協力に関する解説において、「例えば、我が国の環境の保全と経済及び社会の発展とを結び付けた脱炭素社会の実現に向けた取組など、地球温暖化防止に向けた各国の取組を基に、持続可能な社会づくりに着目して考察するなどといった学習活動が考えられる」旨を明記したこと。

・ 「地理探究」の現代世界の系統地理的考察に関する解説において、「我が国の環境の保全と経済及び社会の発展とを結び付けた脱炭素社会の実現に向けた取組などを基に、地球温暖化やエネルギーに関わる問題の解決と新たな産業の成長などを関連付けて考察するような学習活動も考えられる」旨を明記したこと。

②**理科** ・ 「科学と人間生活」の材料とその再利用に関する解説において、「プラスチックについて触れる際には、プラスチック資源の有効活用、使い捨てプラスチックの削減、バイオプラスチックについて取り上げることも考えられる」旨を明記したこと。

・ 「生物」の生態系と人間生活に関する解説において、「例えば、脱炭素社会の実現に向けた地球温暖化対策などを事例として取り上げながら、生態系の保全と持続可能な社会の実現との両立を図るための対策を検討させる」旨を明記したこと。

・ 「地学基礎」の地球環境の科学に関する解説において、「脱炭素社会の実現に向けた地球温暖化対策など、人間生活がもたらす地球環境の変化への対応の状況について触れることも考えられる」旨を明記したこと。

2、子どもの変容を図るカリキュラムづくり

※広義のカリキュラムとは

これまで教育課程としていた学習目標、育成する力、学習内容、学習活動、指導方法、評価方法など、に加えて学習環境や外部人材としての地域のリソースなど、教育活動に関わる全てを含む

ホールスクール・アプローチとその効果

- ・ 地域と連携することで、学校のESDを持続可能にする
- ・ 組織的な取り組みと指導改善を図ることができる
- ・ 探究的な学びの定着や問題解決能力の向上を図ることができる
- ・ 児童生徒の発達段階に応じた学びやスキルの積み重ねができる
- ・ 振り返り活動や自己評価が習慣化し、メタ認知力が向上する

① 学校教育目標及び学校経営方針にESDを位置付ける

学校全体でESDに取り組むことが、最も効果的で持続できることにつながる。具体的には、学校教育目標や学校経営方針に、ESDを位置付ける。

② 組織としてESDを推進する

ESDに関する委員会を校内に設置することやESD担当教員を決めるなど、学校組織としてESDを推進するために工夫をする。ESDカレンダーなどで活動を共有する。さらに、ESDによって育成する資質・能力（価値観と行動力を含む）を明確にする。

③ ESDを教育課程全体で展開する

ESDは、総合的な学習の時間と教科とのカリキュラムマネジメントによる横断的で探究的な学びを指導し、生徒会・児童会活動等の特別活動でも取り組む。

④ 他校と交流する

交流によって、他校の児童・生徒の多様な見方や考え方を知り、学びを深める。

⑤ ESDを通じて校内連携及び環境整備を行う

校内で統一したESDの目標に、教職員全員で学校運営に関わること。学校全体をESDでとらえ、学校運営と教育内容に一貫性が生む。

⑥ 地域・保護者と連携・協働する

学校の情報提供や学校評価の中にESDに関する事項を含め、地域と連携する。

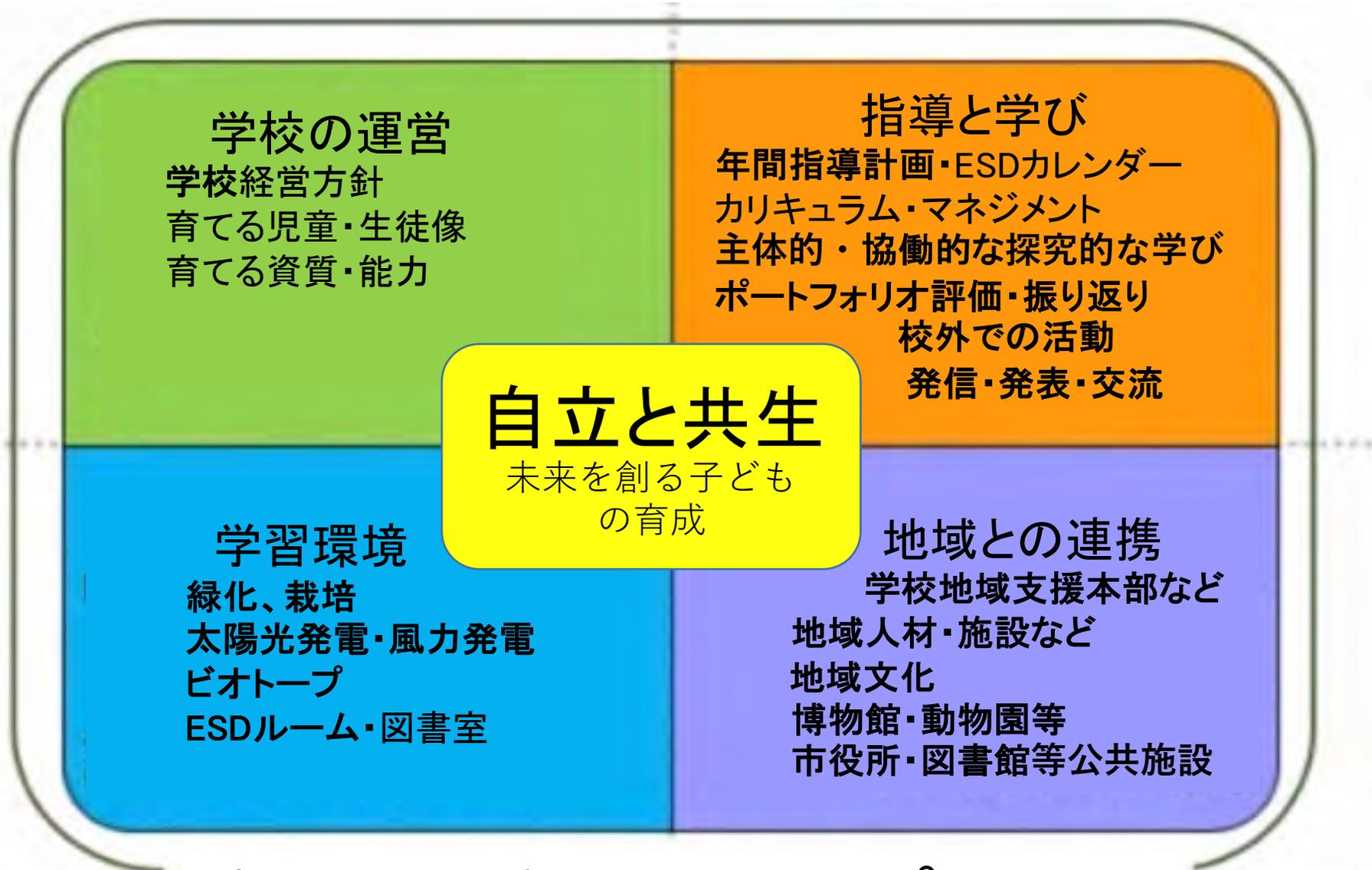
1 ホールスクール・アプローチの確認

Whole School Approach

学校全体でESDに取り組む必要性

- 学校のESDを持続可能にする
- ESDの充実を図る
- 校内外の連携・協力体制を高める
- 探究学習の学び方やスキルを積み上げる

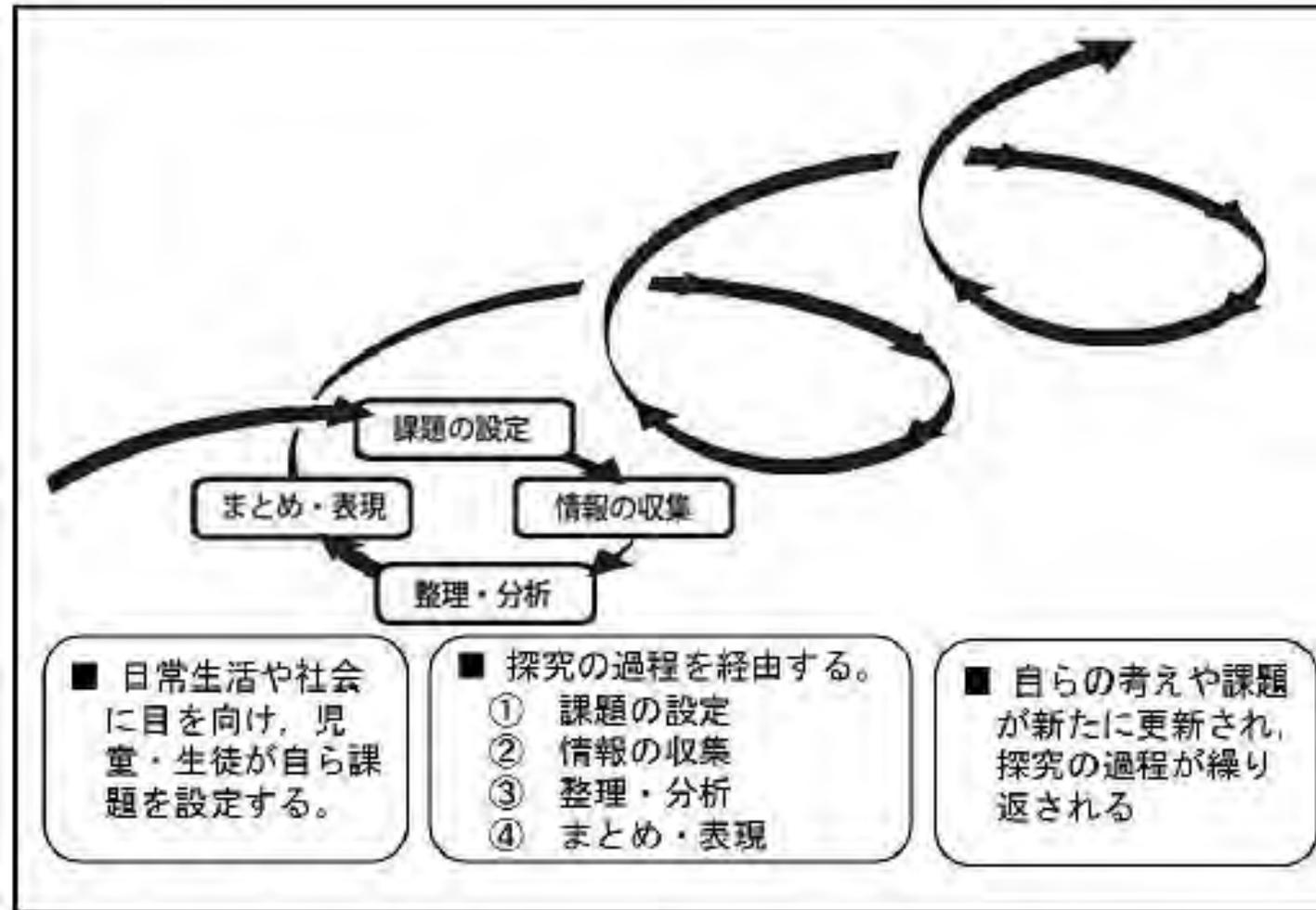




ホールスクール・アプローチ

(1) 探究学習の定着

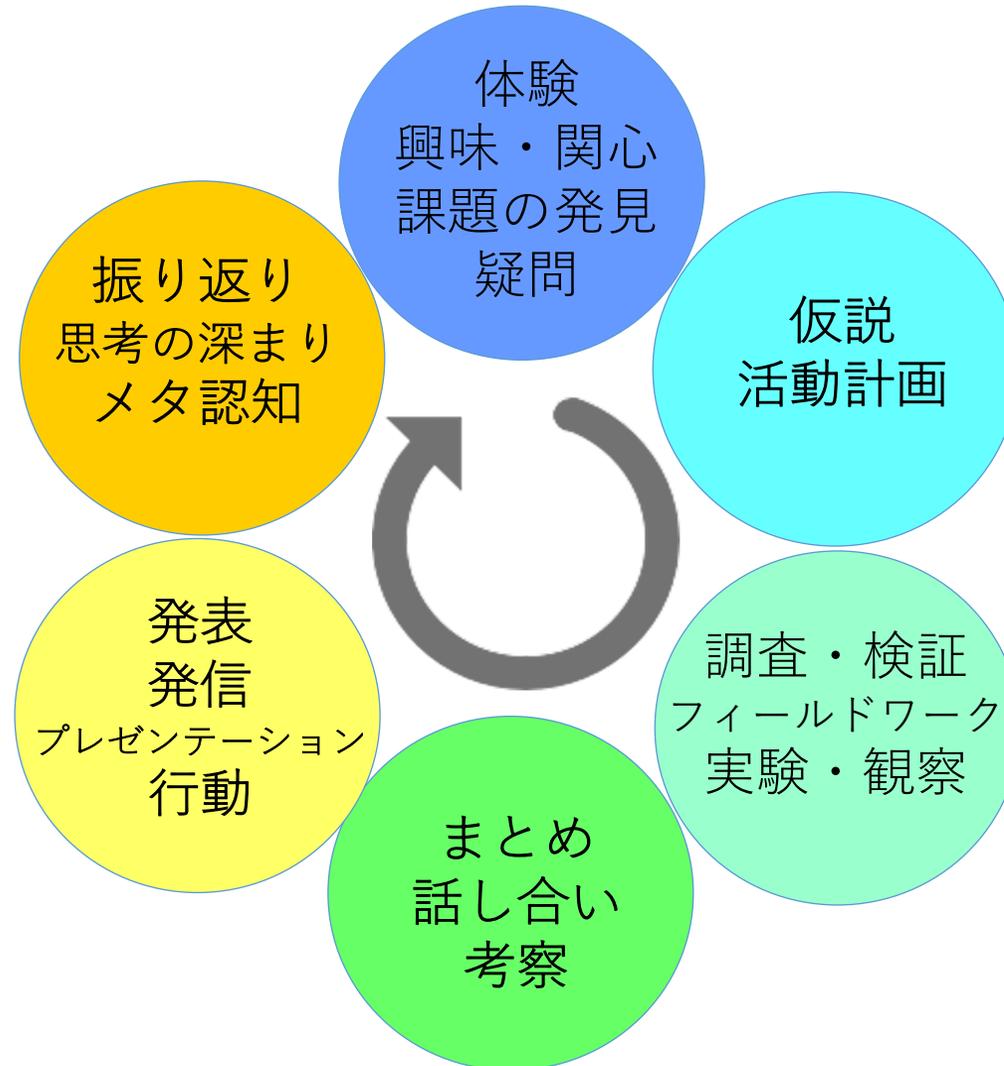
- 学習指導要領 探究的な学習における児童・生徒の学習の姿



ホールスクール・アプローチの期待される効果

Whole School Approach

(1) 探究学習の定着 探究学習の流れ



探究学習のポイント

体験や活動と
思考や協働の
繰り返し

(2) スキルの積み重ね

- タブレットやデジカメでの撮影
- 撮った写真で紙芝居発表
- ポスターセッションによる発表方法
- KJ法による話し合い方とまとめ方
- ホワイトボードを活用した話し合い活動
- タブレットやPCを使った発表方法
 - ※ 年度末に全校でESD発表会を行い、どの学年も発表を行う
- 他校との交流活動 手紙や作品、ビデオレターでの交流方法（低中学年）
- 他校との交流活動 オンラインでの交流方法（高学年、中学生）
 - ※ 他に伝えることで、はじめて自分ごとになる

(4) e-ポートフォリオ（デジタルポートフォリオ）効果

- すべての情報が収納できる
- 紙ベースではできない動画や音声も収納できる
- ネットの情報はURLを記録し、後々活用しやすい
- 他の意見も参照しやすく思考が深まる
- 探究的な学習に合っている
- 自己評価が深まる。教師も評価しやすい。
- コンテンツをピックアップしてすぐにプレゼンできる
- オンラインで交流する際に、活動記録を表示しやすい
- オンライン交流の内容も記録して収納できる

吾輩は猫である 調査内容
夏目漱石

吾輩は猫である。名前はまだ無い。
どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番倜傥な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐いとも悪くもなかつた。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものだ。此の奇妙なものだと思つた感じが今でも残っている。第一毛をもって装束されべきはずの顔がつるつるしてまるで顔会だ。その後背にもがいぶ達つたがこんな片輪には一度も出会つた事がない。のみならず顔の真中があまり

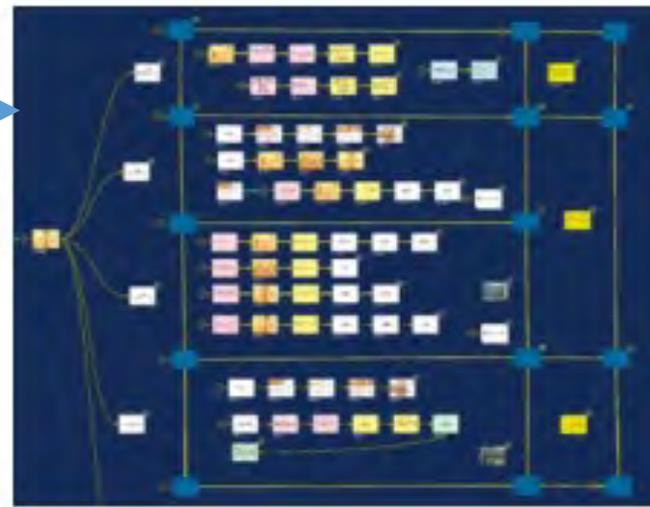
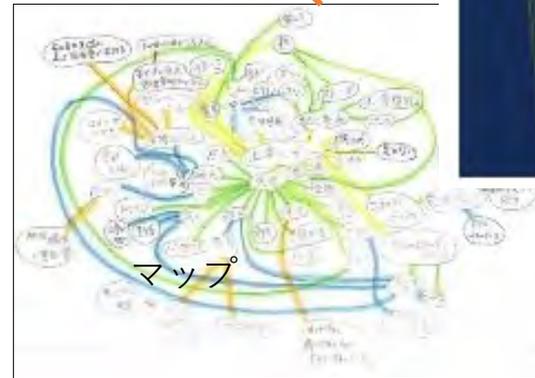


振返りシート



ループリック

No.	目的	+	-	否
1	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類
2	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類
3	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類
4	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類
5	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類
6	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類
7	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類
8	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類
9	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類
10	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類	鳥類の分類





ありがとうございました